

平成二十九年四月五日

第十一回《鎌倉山コース》資料

初代神武天皇の母君

「玉依姫命」について

武家の古都 鎌倉楽しむ会

企画責任者 清藤 孝

『玉依姫命』

鎌倉・龍口明神社由来の石碑には次のような文言が記されています。

“たまよりひめのみこと 玉依姫命わたつみは海神族の祖先とよたまひこのみこと豊玉彦命おわの姫君に在して
ひこひひでみのみこと彦火火出見尊きさきの妃おわに在します上にうがやふきあえずのみこと鵜草葺不合尊の
ははぎみ母君おわに在しましとよたまひめ豊玉姫の妹御いもうとに在しおわ給ひたま龍神と
してそんすう尊崇された”

この文言の「玉依姫命」について「天孫降臨」から紐解いて説明いたします。

「ニニギ命（邇邇芸命）」と

「コノハナサクヤ姫（木花之佐久夜毘売）」

あまてらすおおみかみ天照大御神あしほらに葦原の中つ国なかの統治を可愛おがみい男神、アメ
ノオシホミミノ命みこと（天忍穗耳命）が任命されたけれど
も、代わって息子のニニギノ命みこと（邇邇芸命）を天照大
御神に提案し、改めて、あまてらすおおみかみ天照大御神からニニギノ命みこと（邇
邇芸命）が任命され、そして、ちくし筑紫ひゅうがの日向たかちほの高千穂の峰
にあまくだ天下あまくだって来た。

そこで、この地の地底深く、太い宮柱ふといみやばしらを打ち立てて、
千木ちぎを天空高くそびえさせた宮殿、日向ひゅうがの宮をつくった。
ある日、ニニギノ命みことは朝日の射す国さ、夕日の照る国て
の笠沙かささの岬みさきで、一人の乙女に出会う。

この乙女は、山を支配する神・オオヤマツミノ神（大

山津見神^{むすめ}の娘、コノハナサクヤ姫^{きつひめ}（木花之佐久夜毘売）であつた。天孫^{てんそん}のニギノ命はオオヤマツミノ神の
応諾^{おうだく}を得てコノハナサクヤ姫を妃^{きさい}に迎える。

やがて、コノハナサクヤ姫は三柱^{みはしら}の男神^{おがみ}をお産みになる。

まず、ホデリノ命^{みこと}（火照命）が生まれ、次に生まれ

たのがホスセリノ命^{みこと}（火須勢理命）、次にホオリノ命^{みこと}

（火遠理命。別名ヒコホホデミノ命^{みこと}Ⅱ彦火火出見尊^{ひこひひでみのみこと}）が

生まれました。

コノハナサクヤ姫^{ひめ}の産んだホデリは、海の幸^{すなご}を漁る

海佐知毘古^{うみさちびこ}（海幸彦）となり、ホオリは山の幸を求める

山佐知毘古^{やまさちびこ}（山幸彦）となります。ちなみに次男のホス

セリの運命について「古事記」は明らかにせず不詳^{ふしょう}です。

海幸彦と^{うみさちびこ}

山幸彦^{やまゆきひこ}

ある日のこと――

山^{えもの}へ獲物^{えもの}をとりに行ってきたホオリノ命^{みこと}は兄のホデ

リノ命^{みこと}に「兄さんの漁具を貸してください」と言つて、

海釣り^{うみづ}をする。

しかし、一匹も釣れず、「釣り針^{つりばり}」を魚にとられてし

まう。兄に「釣り針」の返却を強く求められ、山幸彦^{やまゆきひこ}は

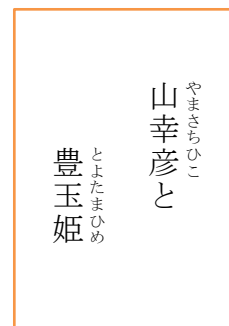
途方^{とほう}に暮れ、海辺に出て大海原を眺めていた。^{おおうなばら}

その時、潮路しおのみちを司つかさどるシオツチノ神（塩椎神）が現れ、ワタツミノ神の御殿ごてんに案内する。

山幸彦やまのちひこはワタツミノ神（綿津見神Ⅱ海神）の御殿でトヨタマ姫（豊玉姫）に出合であい、父のワタツミノ神の許しを得て一緒いっしょにくらすこととなる。

あつという間に三年の月日が流れ、鯛たいの口にあつた「釣り針」を見つけ、ワタツミノ神の許ゆるしを得てトヨタマ姫と離れ地上じよに戻ります。

山幸彦は地上に戻り、海幸彦うみさちひこに「釣り針」返します。一方、トヨタマ姫は山幸彦の子供を宿やどし、地上で産うむことを決心し、山幸彦のもとにやってきます。



トヨタマ姫は海底の宮殿きゆうでんから地上に来て、山幸彦やまのちひこに会あうと「天あまつ神かみの子は海原うなばらでは生めません。地上で生みます」と言ういうと、トヨタマ姫は産気さんけづきました。急いそいで、山幸彦は海辺うみべに、鵜うの羽うを使つかって産屋うぶやを作ります。しかし、産屋の屋根ふが葺ふき終はないうちに生まれそうになつてきたので、こらえきれずに産屋うぶやに入りました。その時、トヨタマ姫は「異郷いきようの者は子供を産むとき、故郷こきようの国の姿に戻かへって産むので、お願いですから、決きし

てご覧らん

の
ぞ

ぎょうてん

鰐わに
（
鰲さめ

の
ゾ

こ
が
い

お

お

みこ

うがやふきあえずのみこと

う
ば

そして、生んだ子の乳母として、トヨタマ姫の妹御の

タマヨリ姫（玉依姫）を地上に遣わされてきました。

たまよりひめ

うがやふきあえずのみこと

みこと

よういく

るにしたがつて自分を養育してくれた母の妹、すなわち

ちぎれ

С

みこと

そして、タマヨリ姫はウガヤフキアエズノ命との間

よはしら
おがみ

に四柱の男神をもうけた。いずれも天つ神の御子です。

初代天皇・神武天皇

長男・イツセノ命（五瀬命）―高千穂の日向の宮で国を治める。後に四男カムヤマトイワレビコノ命と大和を目指し東征を始める。

二男・イナヒノ命（稲氷命）―母であるタマヨリ姫の故郷を訪ねて海原の奥へと旅立って行く。

三男・ミケヌノ命（御毛沼命）―海のはるか彼方にある常世国へ渡っていく。

四男・ワケミケヌノ命（若御毛沼命）。別名トヨミケヌノ命。またカムヤマトイワレビコノ命。神倭伊波礼毘古命―長男イツセノ命と天下を安らかに治めるため高千穂の日向の宮から東征していく。

高千穂の日向の宮で大八島国を治めていたイツセノ命とカムヤマトイワレビコノ命は、もっと中央に出て安らかに治めることを思い立ち日向国から、筑前、筑後、筑紫、宇佐、安芸、吉備の国つ神を帰順させ東征を続けたが、波速渡（大阪）でナガスネビコ（那賀須泥毘古）の抵抗に遭い帰順させたが、イツセノ命は深傷を負い息を引き取ってしまう。カムヤマトイワレビコノ命は兄の死の悲しみを抑えながら、進路を迂回し熊野の村に入った。そして、熊野の荒ぶる神を帰順させ大和の畝傍（橿原市）にたどりつき、橿原の宮で初代・神武天皇となり天下を治めることになりました。

完

天孫降臨の略図

